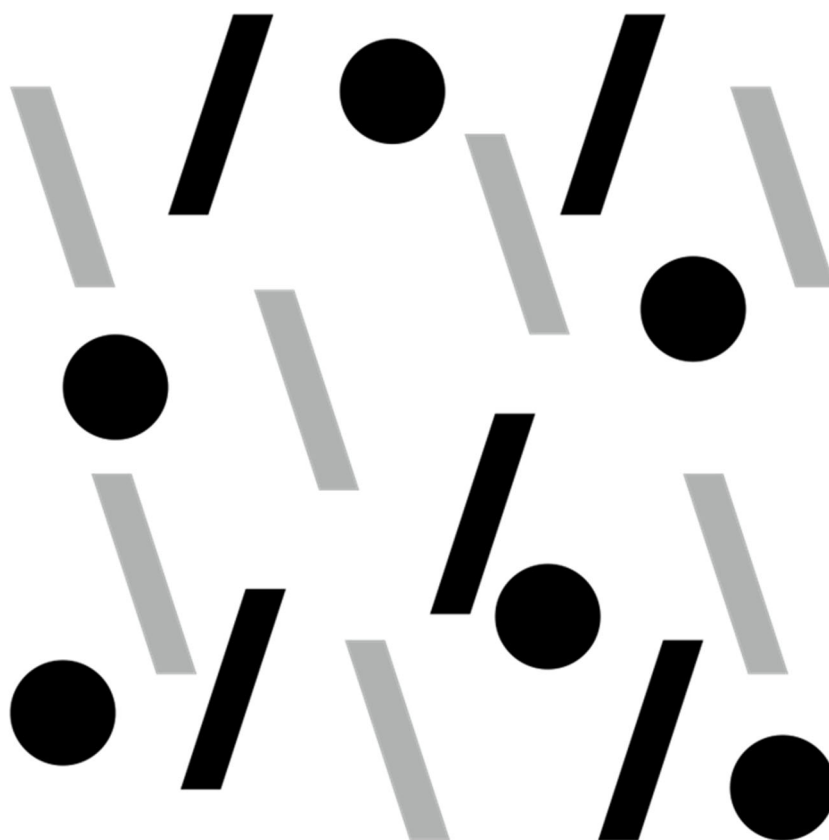


I 調査の概要



I 調査の概要

I - 1 調査の概要

1 調査の目的

市政や市民生活に関する市民意識等について、市民を対象にアンケート調査を実施し、旭川市の市政運営やまちづくりの基礎的な資料にするとともに、「第8次旭川市総合計画」の進捗状況を計る指標として活用する。

2 調査項目

次の12項目、49問について調査した。

- | | |
|---------------------------|------|
| (1) 回答者のプロフィール | (7問) |
| (2) 旭川市に暮らしていて日頃感じること | (6問) |
| (3) これまでの暮らしに対する評価と今後の重要度 | (1問) |
| (4) 地域における活動について | (5問) |
| (5) 文化・芸術活動と生涯学習について | (5問) |
| (6) 健康と暮らしの安心について | (6問) |
| (7) 子どもたちの健やかな成長について | (4問) |
| (8) 社会環境と個人の生活について | (3問) |
| (9) 環境に対する意識や取組について | (2問) |
| (10) 災害時や緊急時への備えについて | (2問) |
| (11) 旭川市役所の印象と市政情報の提供について | (7問) |
| (12) まちづくりについての自由意見 | (1問) |

3 調査方法

- (1) 調査対象地域 旭川市全域
- (2) 調査対象者 旭川市民のうち18歳以上の男女3,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から地域別、性別、年齢層別人口比率を考慮し無作為に抽出
- (4) 調査方法 調査票の郵送によるアンケート方式（Web回答併用）
- (5) 調査期間 令和7年5月16日～6月10日

4 回収結果

- (1) 発送数 3,000人
- (2) 回収数 1,508人
- (3) 回収率 50.3%（＝回収数÷発送数）

5 調査結果の表し方

- (1) 調査結果の数値は回答率（%）で示している。回答率の母数は、その質問項目に該当する回答者の数であり、その数はNで示している。
- (2) 回答者は特に明記しない限り、原則として各設問の無回答を含む回答者総数（副設問では該当する回答者数）に対する百分率（%）で表している。
- (3) 百分率は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しているため、回答率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (4) 選択肢の中から複数選べる設問では、回答率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (5) 本文中では百分率を表示する場合、小数第1位まで表示するが、数値を比較する場合は、「・・・ポイント高く（低く）なっている」などと表現している。
- (6) 本文中では、回答項目の分類を次のとおり定義した。
 - ・「良い方」＝「よい」＋「まあよい」
 - ・「悪い方」＝「少し悪い」＋「悪い」※「良い方」は「よい」および「まあよい」の割合の小数第2位を四捨五入した値の合計値、「悪い方」は「少し悪い」および「悪い」の割合の小数第2位を四捨五入した値の合計値を表している。
- (7) 性別や年齢層別などの調査結果は、それぞれ無回答があるので、回答数の合計は全体と一致しない場合がある。
- (8) 経年変化の比較を行うために、令和5年度旭川市民アンケート調査の結果を引用している。

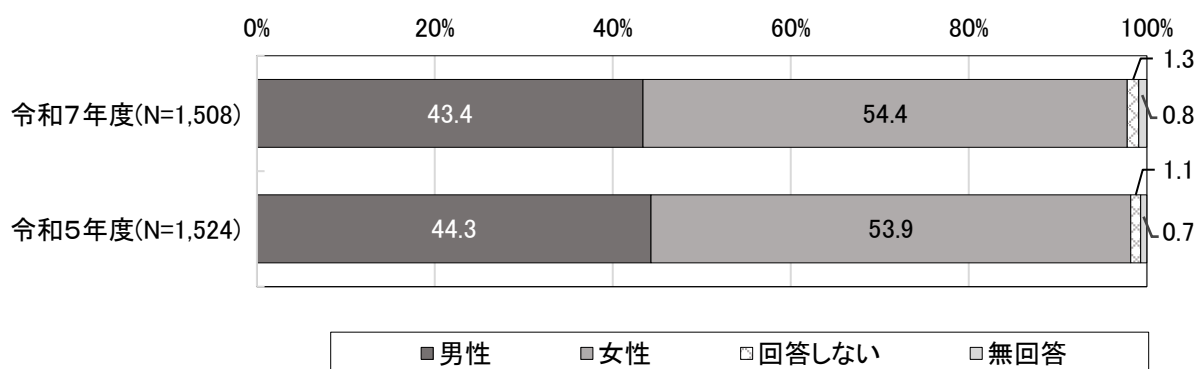
I-2 回答者のプロフィール

1 性別

回答者1,508人の性別を見ると、「男性」が655人(43.4%)、「女性」が821人(54.4%)、「回答しない」が20人(1.3%)「無回答」が12人(0.8%)となっている。

旭川市の人口314,101人(令和7年4月1日現在の住民基本台帳人口)の内訳は、「男性」が145,403人(46.3%)、「女性」が168,698人(53.7%)となっており、人口の男女比率と同じく女性の回答率が高くなっている。

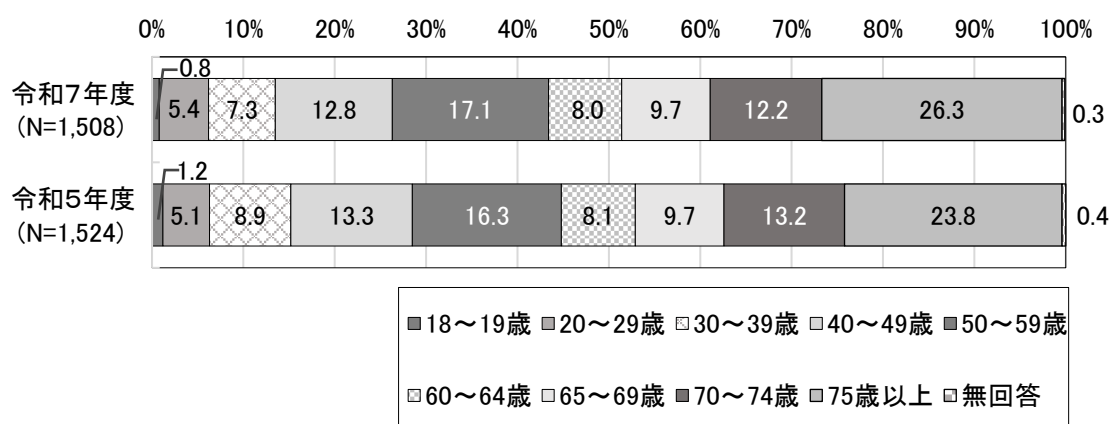
令和5年度調査と比較すると、性別の割合はほぼ同じとなっている。



2 年齢層

回答者を年齢別にみると、「75歳以上」が26.3%と最も高く、次いで「50～59歳」が17.1%、「40～49歳」が12.8%となっている。

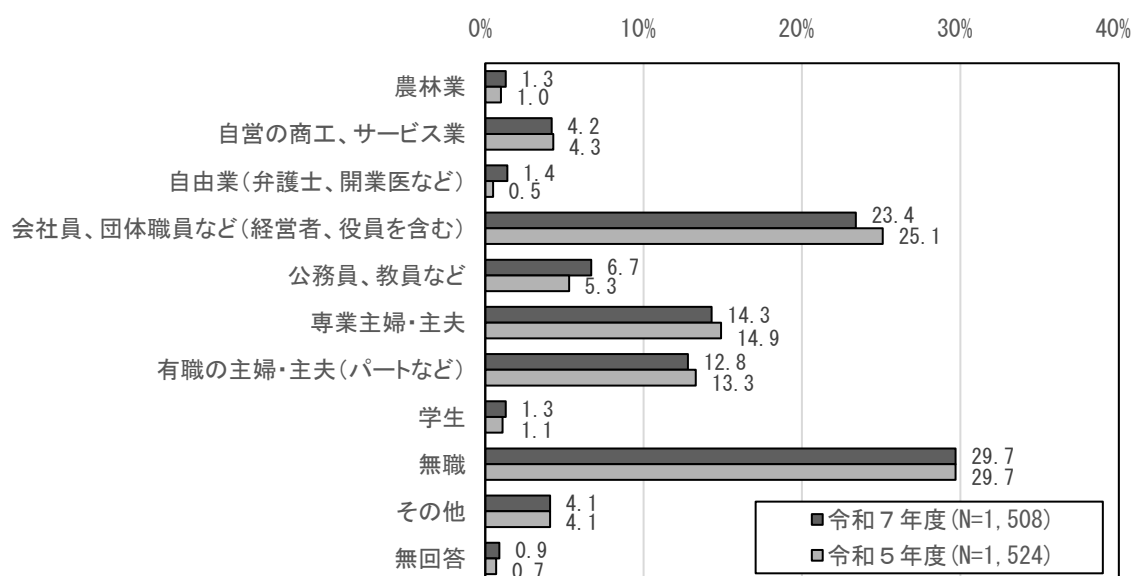
令和5年度調査と比較すると、50歳未満の割合の合計は2.2ポイント低く、50歳以上の割合の合計は2.2ポイント高くなっている。



3 職業

回答者の職業構成比をみると、「無職」が29.7%と最も高く、次いで「会社員、団体職員など（経営者、役員を含む）」が23.4%、「専業主婦・主夫」が14.3%、「有職の主婦・主夫（パートなど）」が12.8%の順になっている。「学生」「農林業」「自由業」は少数である。

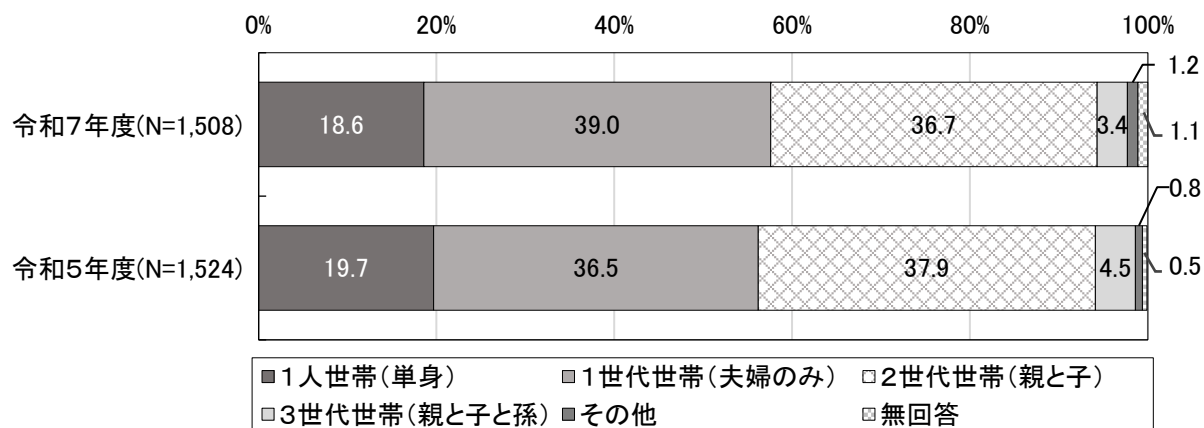
令和5年度調査と比較すると、構成比は同じような傾向を示している。



4 家族構成

回答者の家族構成をみると、「1世代世帯（夫婦のみ）」が39.0%と最も高く、次いで「2世代世帯（親と子）」が36.7%、「1人世帯（単身）」が18.6%、「3世代世帯（親と子と孫）」が3.4%の順になっている。

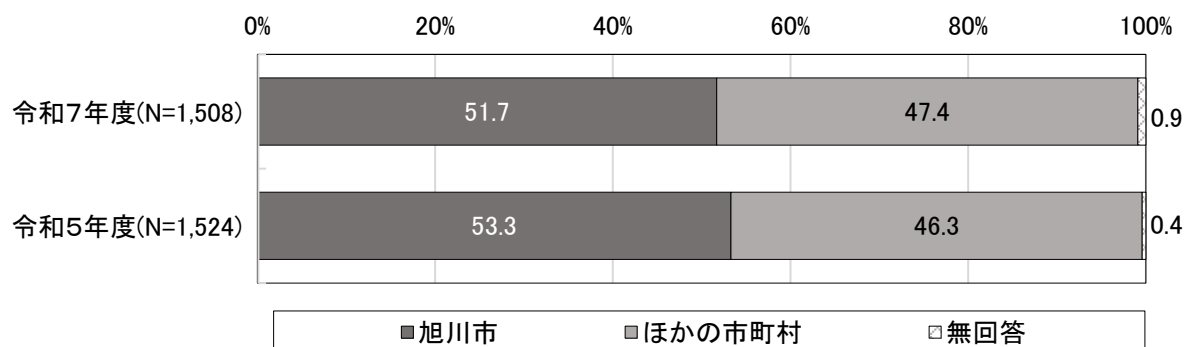
令和5年度調査と比較すると、「1世代世帯（夫婦のみ）」が2.5ポイント増加しているのに対し、「1人世帯（単身）」が1.1ポイント、「2世代世帯（親と子）」が1.2ポイント、「3世代世帯（親と子と孫）」が1.1ポイント減少している。



5 出生地

回答者の出生地をみると、「旭川市」が51.7%、「ほかの市町村」が47.4%となっている。

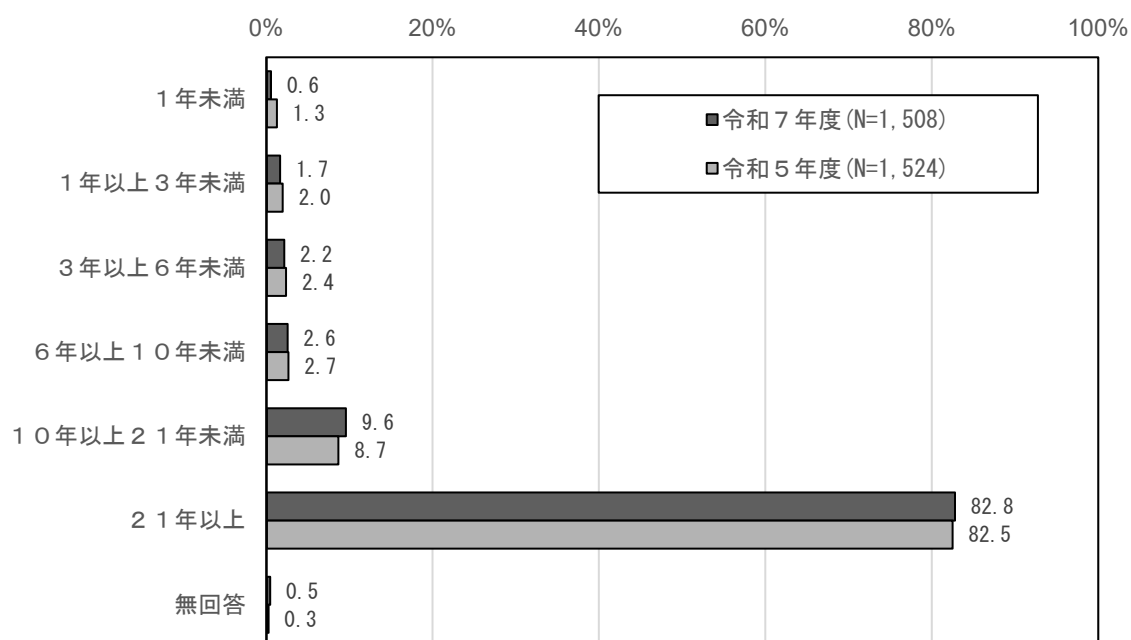
令和5年度調査と比較すると、「旭川市」の回答比率が1.6ポイント低くなっている。



6 通算居住年数

回答者の旭川市における通算居住年数は、「21年以上」が82.8%と最も高く、次いで「10年以上21年未満」が9.6%となっている。

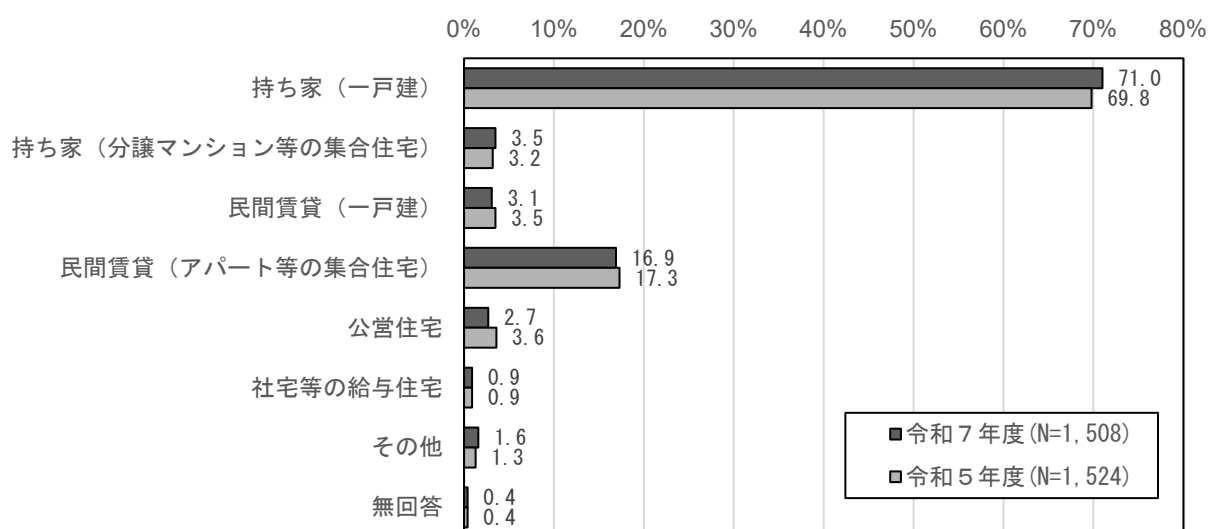
令和5年度調査と比較すると、「21年以上」が0.3ポイント、「10年以上21年未満」が0.9ポイント増加している。



7 住宅の種類

回答者が住んでいる住宅の種類は、「持ち家（一戸建）」が71.0%と最も高く、次いで「民間賃貸（アパート等の集合住宅）」の16.9%の順になっている。

令和5年度調査と比較しても、ほぼ同じ傾向を示している。



8 居住地域

今回調査では、旭川市内を15地域に区分し、集計を行った。各地域への調査票発送数は、母集団の人口の割合に応じて決定しており、母集団は、令和7年4月1日現在の住民基本台帳人口による。

全体の回答率は50.3%となっており、令和5年度調査より0.5ポイント減少している。地域別に見ると、「緑が丘地域」が58.2%と最も高く、次いで「春光地域」が56.7%、「東旭川地域」が56.3%となっている。

地域名	母集団	発送数	有効回答数(人)	回答率 (%)
中央・新旭川地域	37,872	360	180	50.0
豊岡地域	23,054	218	120	55.0
東光地域	47,036	439	214	48.7
北星地域	30,383	291	140	48.1
末広地域	26,896	258	130	50.4
春光地域	14,691	141	80	56.7
春光台・鷹の巣地域	10,877	105	48	45.7
神居地域	28,779	276	123	44.6
江丹別地域	232	18	3	16.7
永山地域	39,956	377	188	49.9
東旭川地域	12,569	119	67	56.3
神楽地域	16,300	157	81	51.6
緑が丘地域	18,014	170	99	58.2
西神楽地域	2,668	25	13	52.0
東鷹栖地域	4,774	46	22	47.8
(居住地不明)	-	-	-	-
合計	314,101	3,000	1,508	50.3

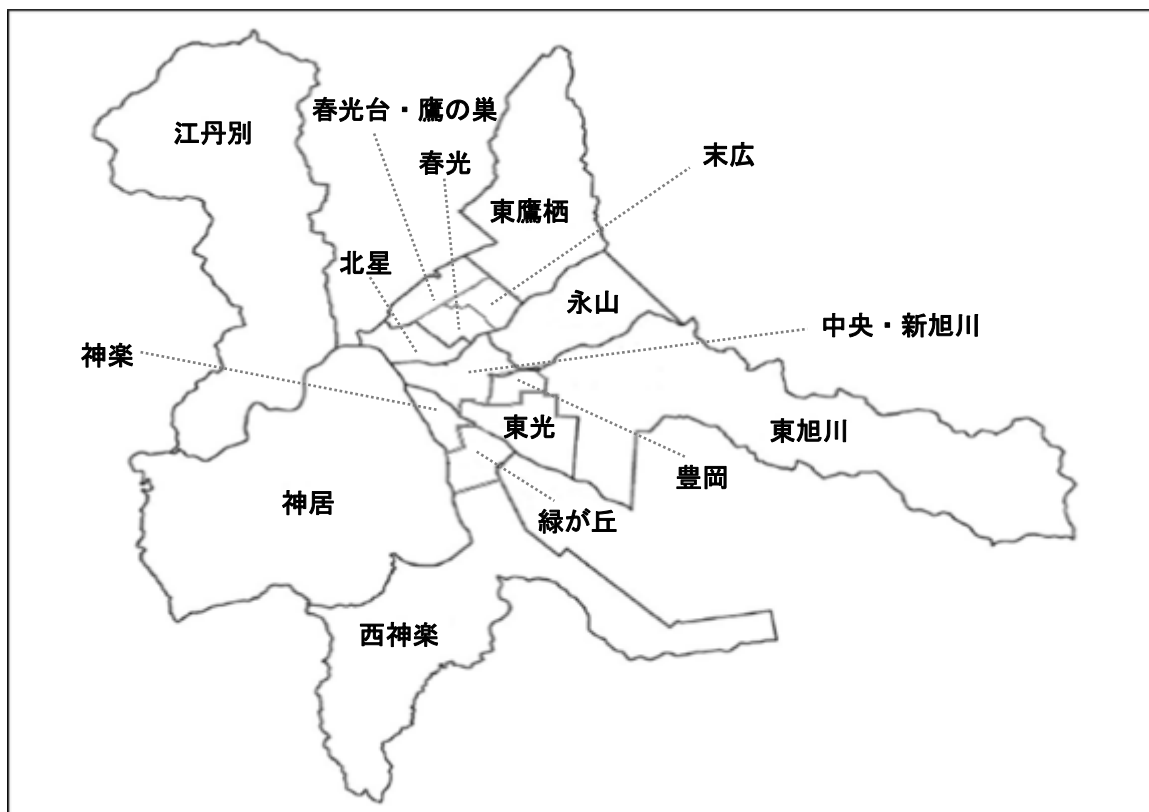
地域区分は、下表のとおり「地域まちづくり推進協議会」の所管区域に基づいている。なお、令和５年度調査における地域区分との差異はない。

【調査の地域名と対象地区市民委員会】

地域名	対象地区市民委員会
中央・新旭川地域	西、中央、大成、朝日、新旭川
豊岡地域	新豊岡、豊岡、愛宕
東光地域	啓明、東光、東光南、東豊中央、東部東光、千代田
北星地域	北星、旭星、旭星西、川端、近文東、近文西、春光町
末広地域	末広中央、末広、末広東
春光地域	春光西、春光中央、春光東
春光台・鷹の巣地域	春光台、鷹の巣福祉村
神居地域	神居中央、神居東、台場、忠和、神居雨紛、西神居※
江丹別地域	江丹別、嵐山※
永山地域	永山第一、永山南西、永山南、永山第三、永山第二
東旭川地域	東旭川中央、旭正、日の出倉沼、桜岡、豊田、米原瑞穂
神楽地域	神楽本町、神楽宮前、高野、神楽岡
緑が丘地域	旭神、神楽岡東、緑が丘、西御料地、緑が丘東
西神楽地域	西神楽地区瑞穂、西神楽地区中央、西神楽地区聖和、西神楽地区千代ヶ岡
東鷹栖地域	東鷹栖中央、東鷹栖東、東鷹栖西、東鷹栖北※

※東鷹栖北地区市民委員会は平成３０年３月、嵐山地区市民委員会は令和５年４月、西神居地区市民委員会は令和６年４月に解散している。

【地域区分図】



※地域別の境界は、実際の地域まちづくり推進協議会の地区割りとは異なる場合がある。